

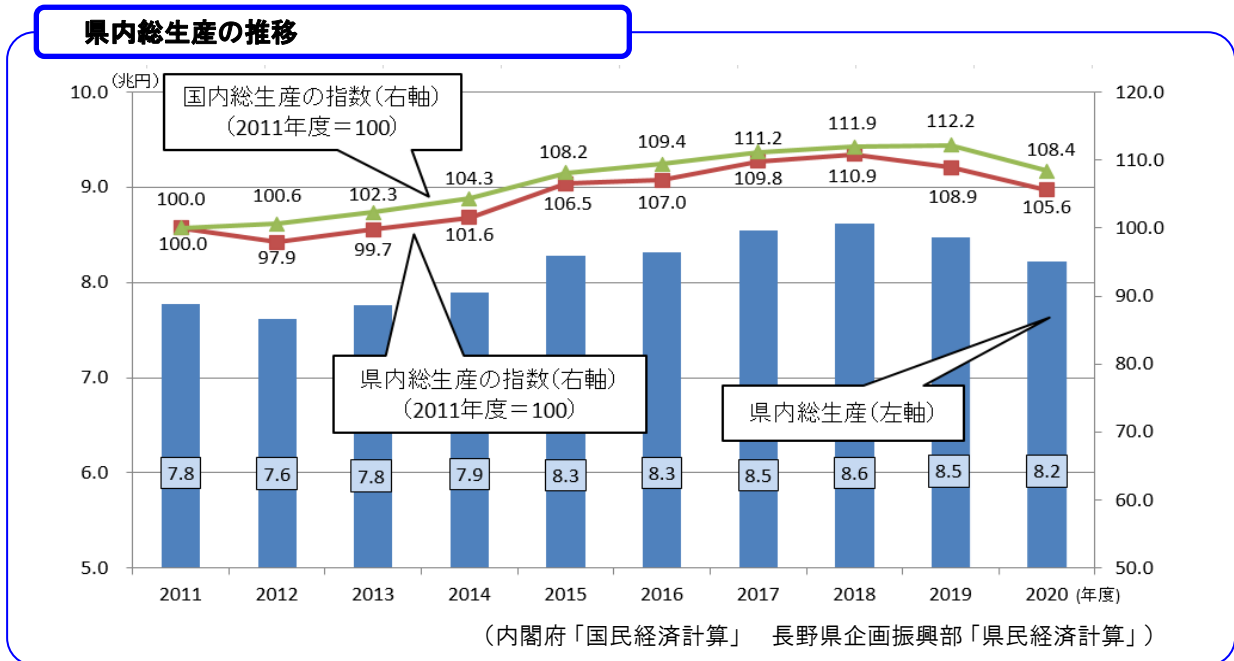
## 第3章 医療費等の現状

# 第1節 経済状況・社会保障

## 1 経済・財政状況

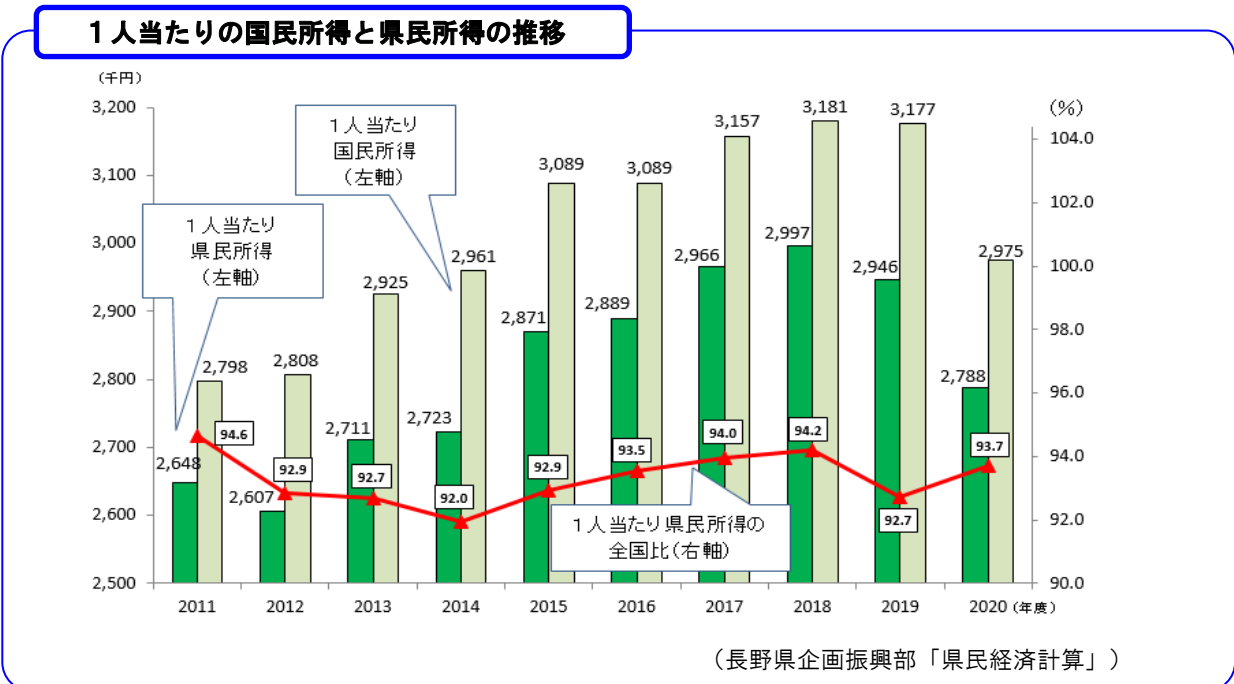
### (1) 長野県の県内総生産（名目）

長野県の県内総生産は、平成26年(2014年)まで7兆円台で推移していましたが、近年は減少傾向にあるものの、8兆円台で推移しています。



### (2) 1人当たりの国民所得と県民所得

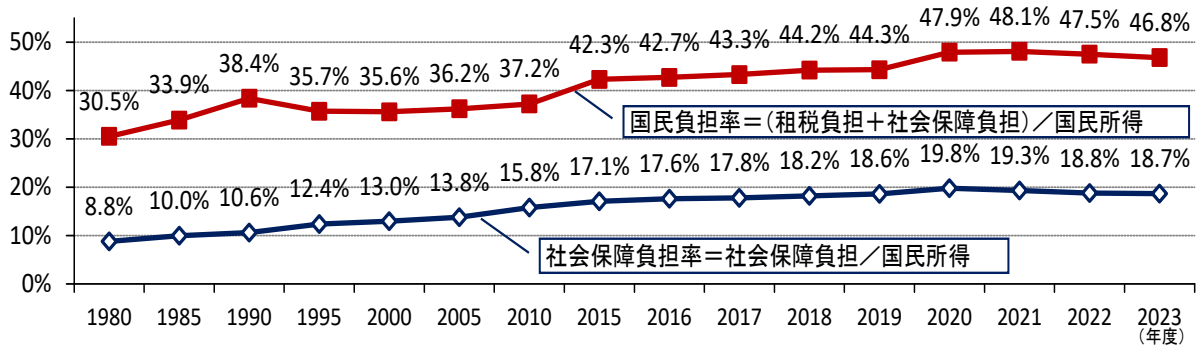
長野県の1人当たり県民所得は1人当たり国民所得を下回って推移しています。また、近年は国民所得と同様に減少傾向にあります。



### (3) 国民負担率・社会保障負担率

近年、国民負担率は47%前後で推移し、社会保障負担率は19%前後で推移しています。海外の状況を見ると、日本よりも高い負担率となっている国もあります。

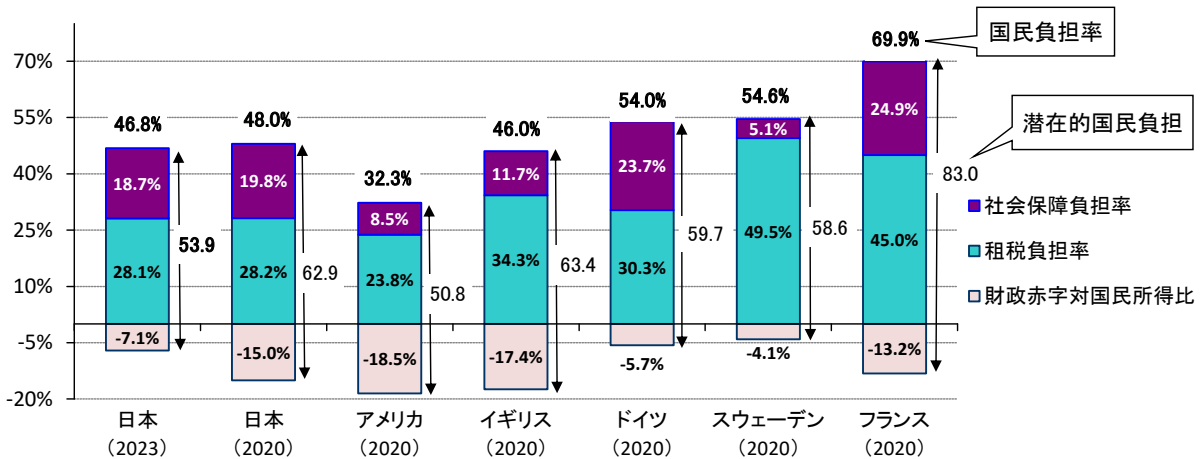
#### 国民負担率と社会保障負担率の推移



※2022年度は実績見込、2023年度は見通し

(財務省公表資料)

#### 国民負担率の国際比較

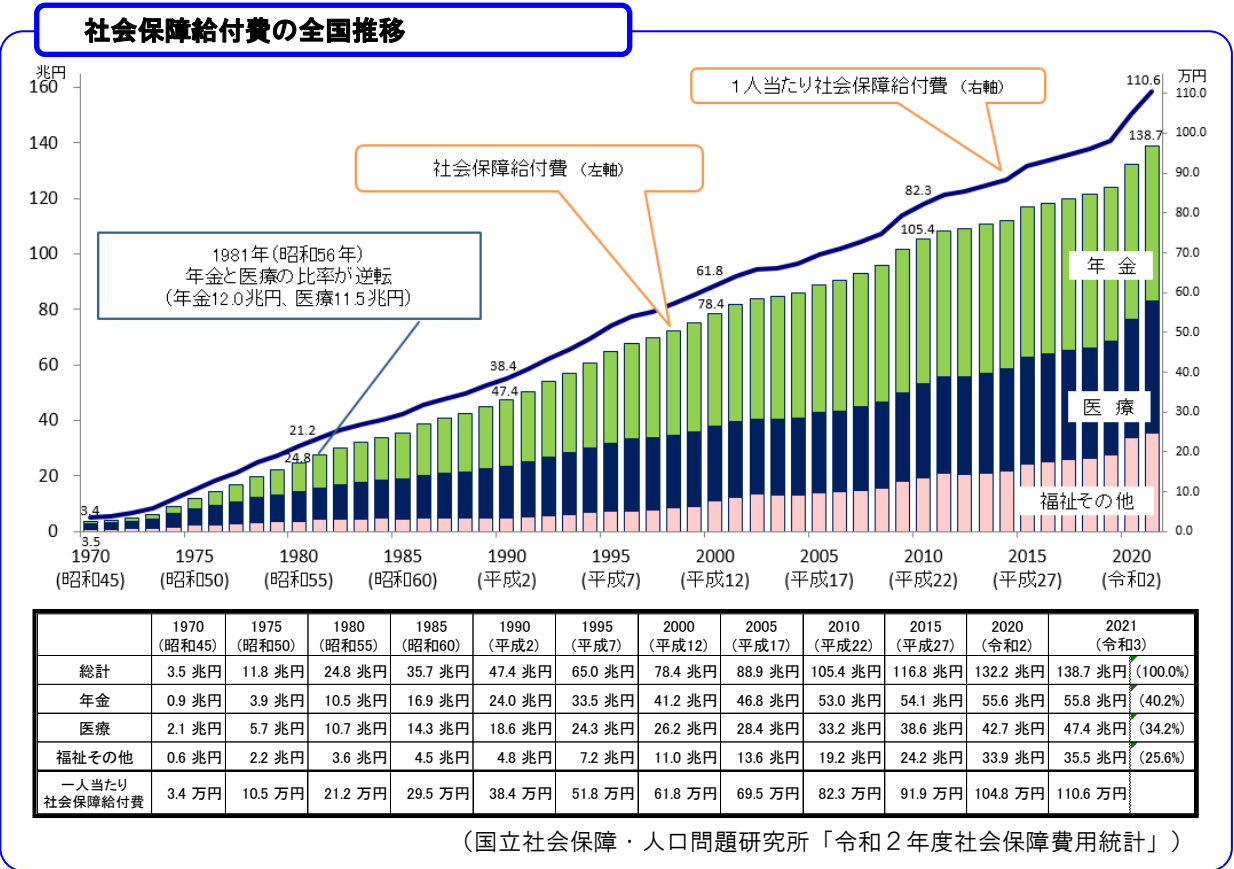


※国民負担率＝租税負担率＋社会保障負担率  
 潜在的国民負担率＝国民負担率＋財政赤字国民所得比  
 日本（2023年度）は見通し

(財務省公表資料)

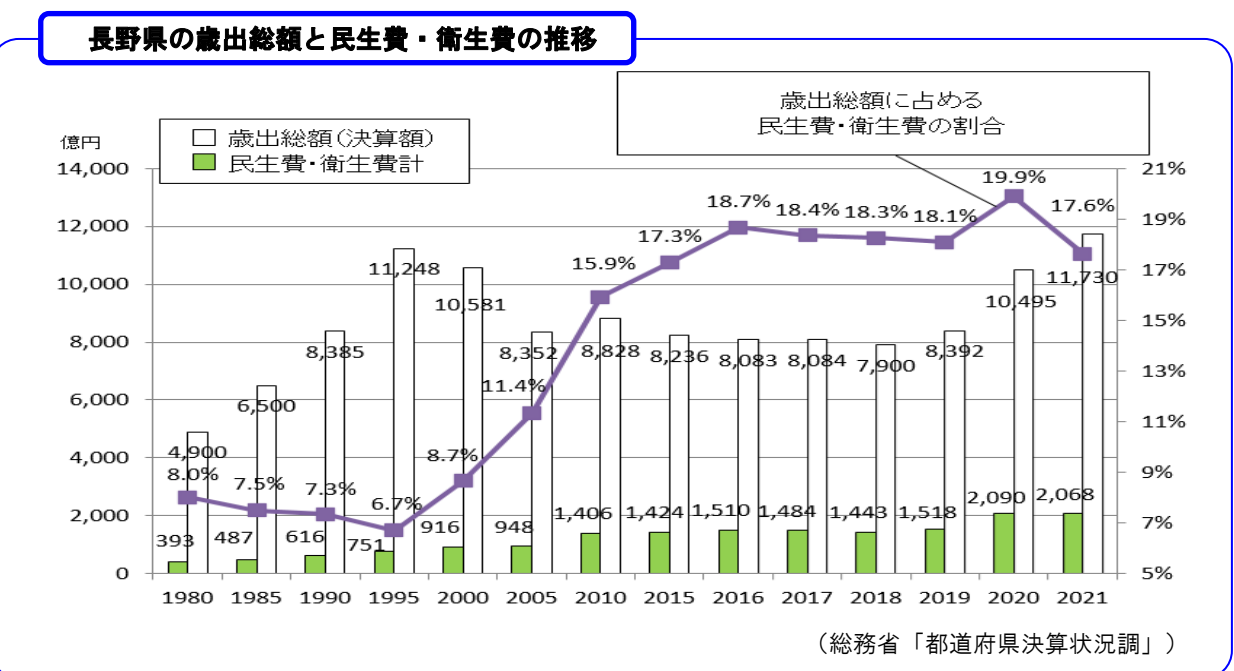
#### (4) 社会保障給付費の全国推移

社会保障給付費は、全体で約 138.7 兆円となっており、年金が約 40.2%、医療が約 34.2%を占めています。



#### (5) 長野県の歳出総額と民生費・衛生費（決算ベース）

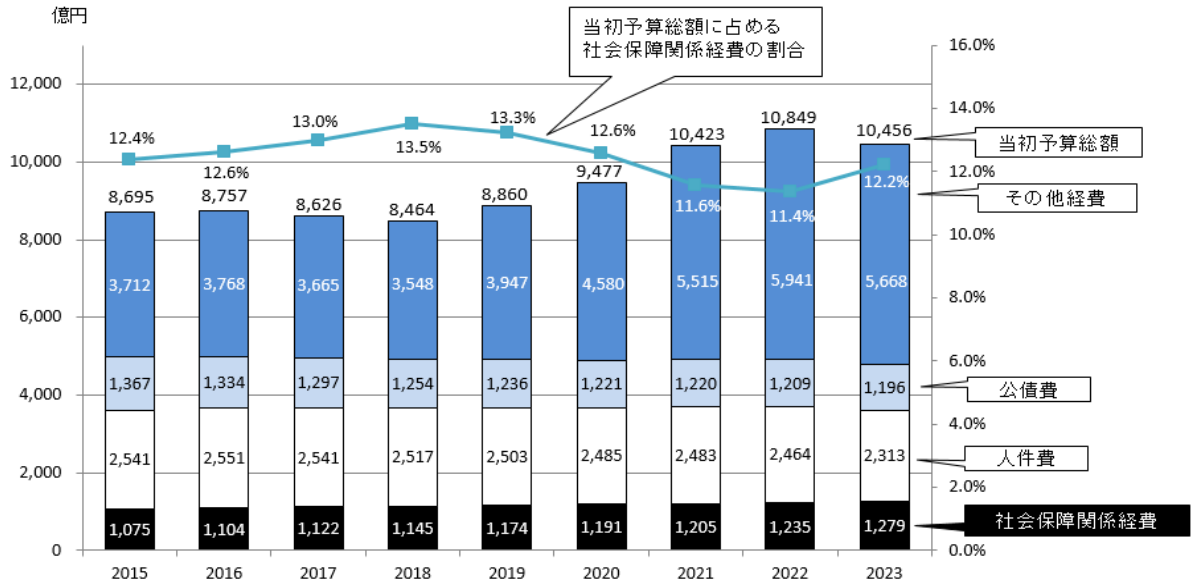
長野県の普通会計歳出総額(決算額)は、近年は増加傾向にあります。また、民生費・衛生費の歳出総額に占める割合は、18%前後で推移しています。



## (6) 長野県の社会保障関係経費

長野県の社会保障関係経費は一般会計予算総額の約1割を占め、増加が続いています。2023年度には予算総額が前年度比で約393億円減少する一方で、社会保障関係経費は約44億円増加しています。

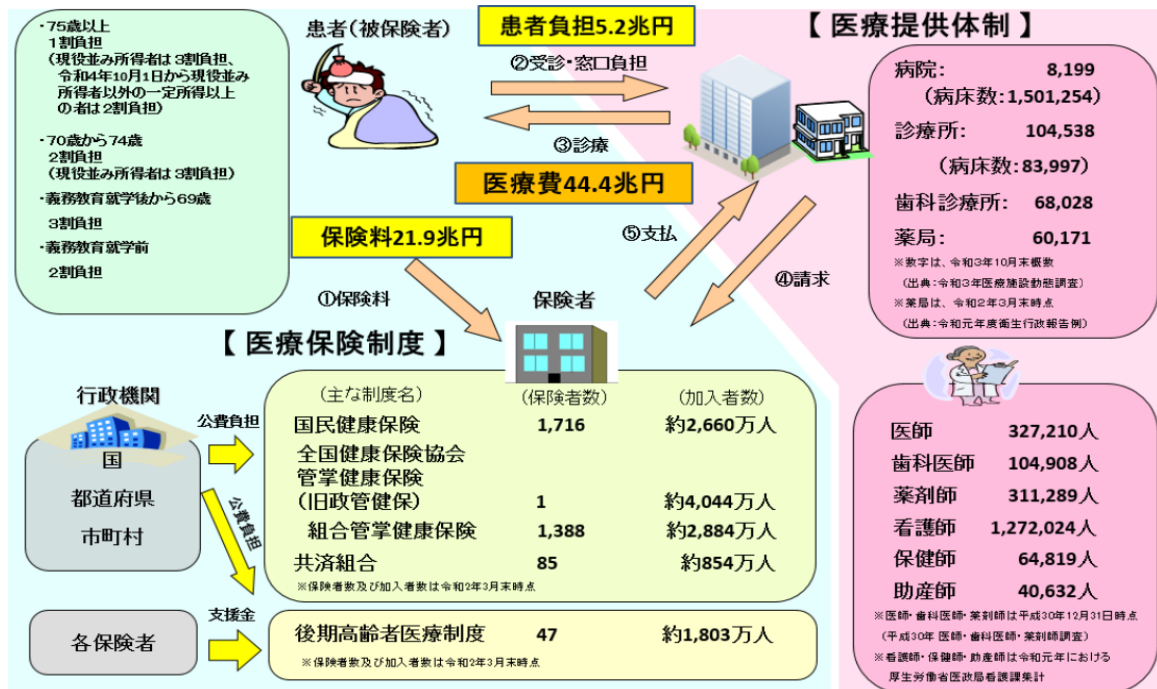
### 長野県の社会保障関係経費の推移



「社会保障関係支出」に含まれる経費

- 【生活困窮者】生活保護費、中国帰国者支援給付金 など
- 【高齢者介護】介護給付費負担金、軽費老人ホーム事務費補助金 など
- 【医療】国民健康保険関係費、後期高齢者医療保険関係費、福祉医療給付事業補助金、特定医療費（指定難病）など
- 【子ども・子育て】児童手当、児童扶養手当、児童保護措置費、小児慢性特定疾病医療費 など
- 【障がい者支援】障害者施設関係負担金、障害児施設給付費、特別障害者手当 など

## 【参考】日本の医療制度の概要



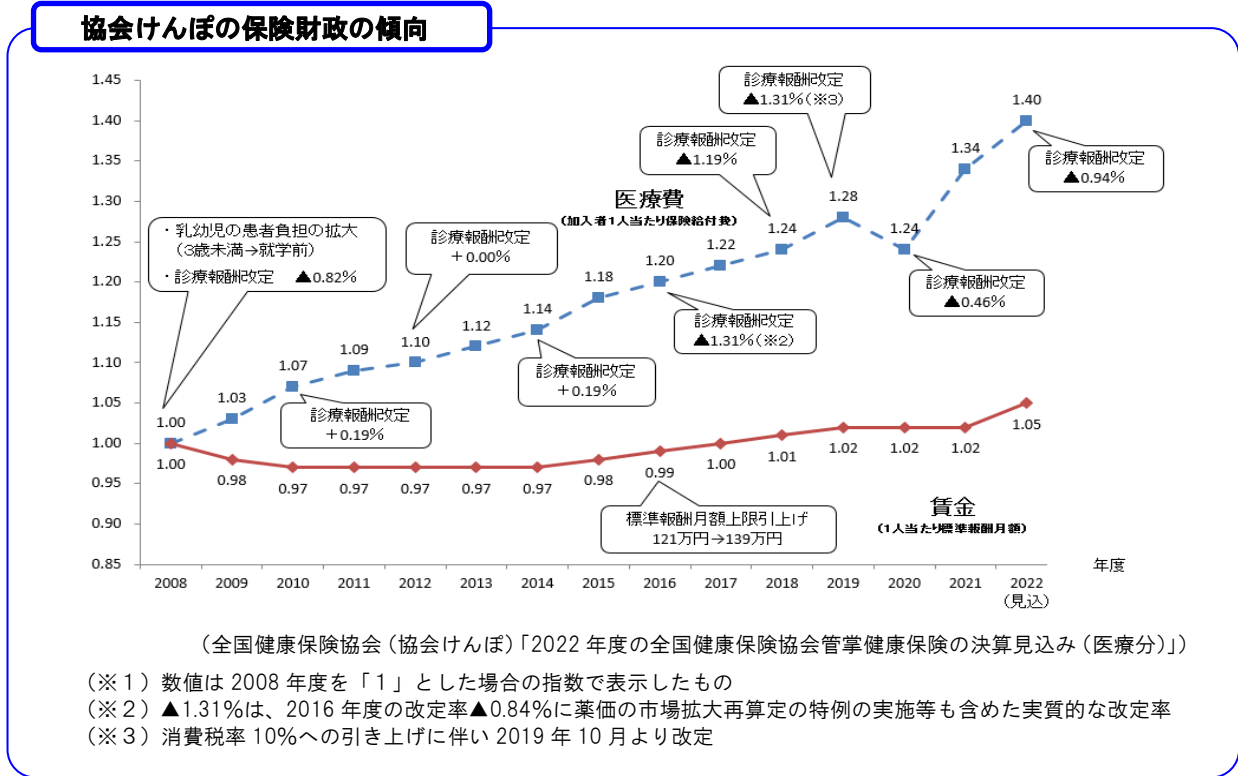
(厚生労働省「我が国の医療保険について」)

## 2 医療保険財政の状況

厳しい経済状況を反映して被保険者の収入が伸び悩む中、高齢化の進展や医療技術の進歩などにより医療費は増加を続けており、医療保険財政は非常に厳しい状況にあります。

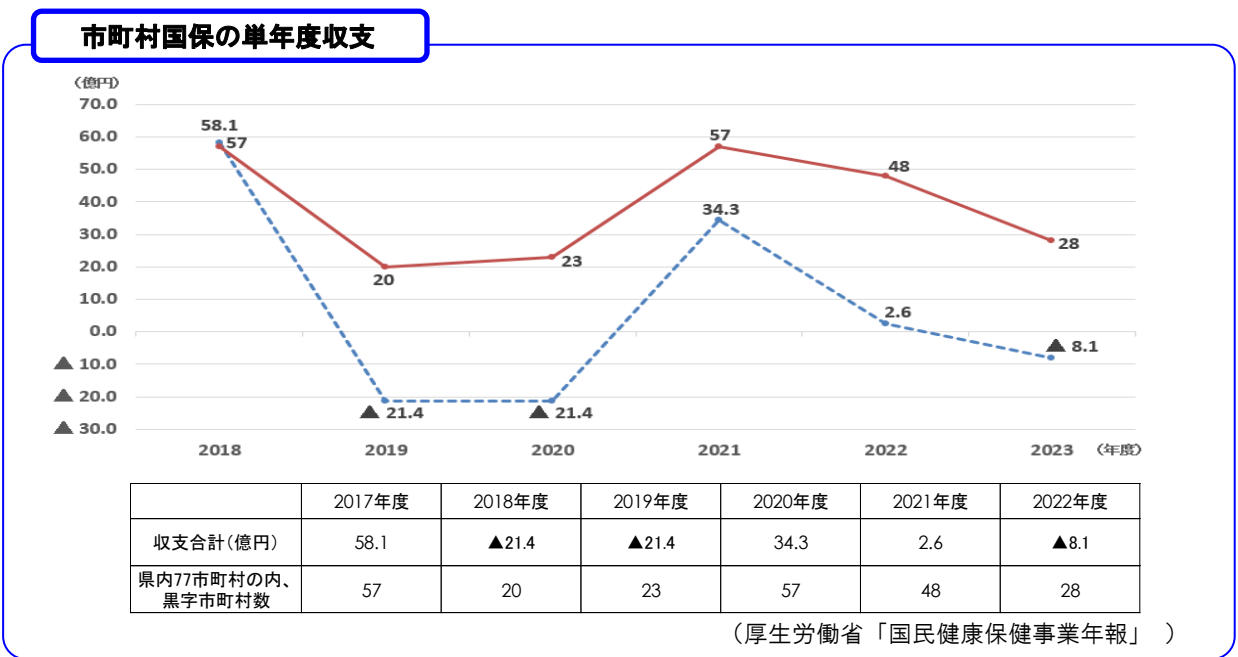
### (1) 標準報酬月額と保険給付費の動向

医療費支出（1人当たり保険給付費）の伸びが、保険料収入（1人当たり標準報酬月額）の伸びを上回っており、ここ数年では特にその傾向が顕著になっています。



### (2) 市町村国保の状況

市町村国保の単年度収支は悪化傾向にあり、2022年度の状況は、8.1億円の赤字、黒字市町村数は県内77市町村の内、28市町村と、保険財政は恒常的に厳しい状況にあります。



# 県民医療費の動向

## 1 県民医療費の推移

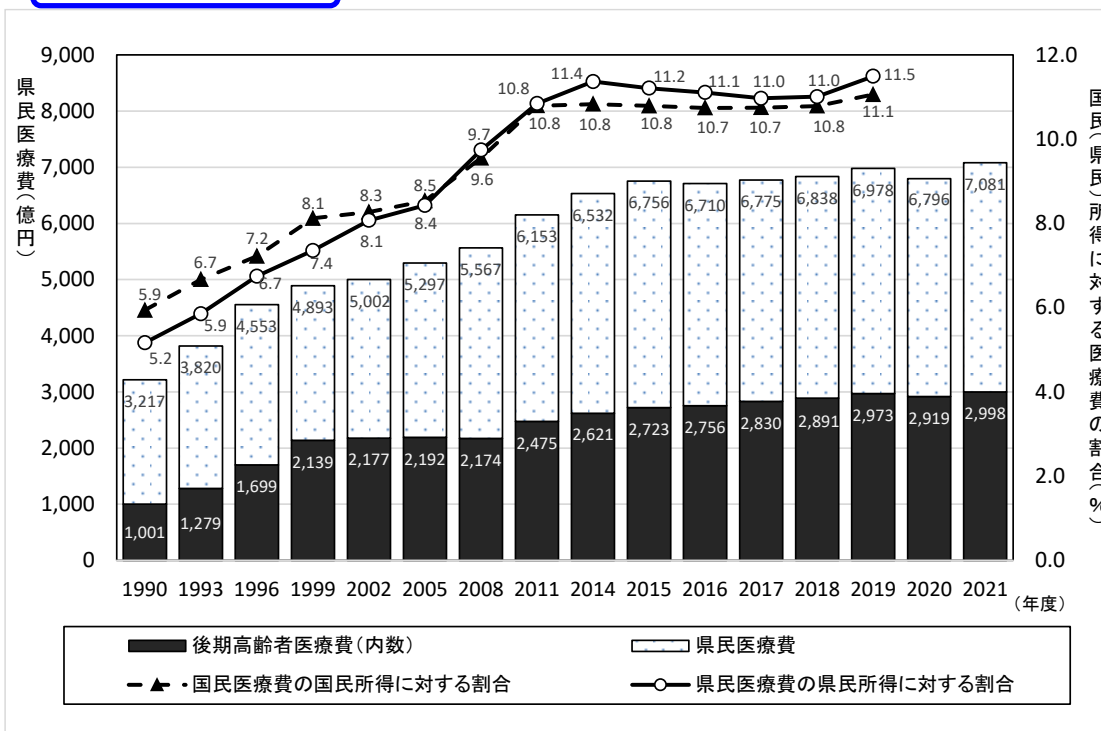
2021年度の県民医療費は **7,081億円** で、前年に比べ **285億円(4.2%)増加** と、増加傾向にあります。

2021年度の後期高齢者医療費は **2,998億円** で、県民医療費の **42.3%** を占めています。全国では、国民医療費の **37.9%** を後期高齢者医療費が占めていますが、長野県は全国を4.4ポイント上回っています。

今後、75歳以上人口の増加に伴い、県民医療費に占める後期高齢者医療費の割合は一層増加するものと予想され、県民医療費も増加が見込まれます。

また、所得に対する医療費の割合も年々増加しています。

県民医療費の推移



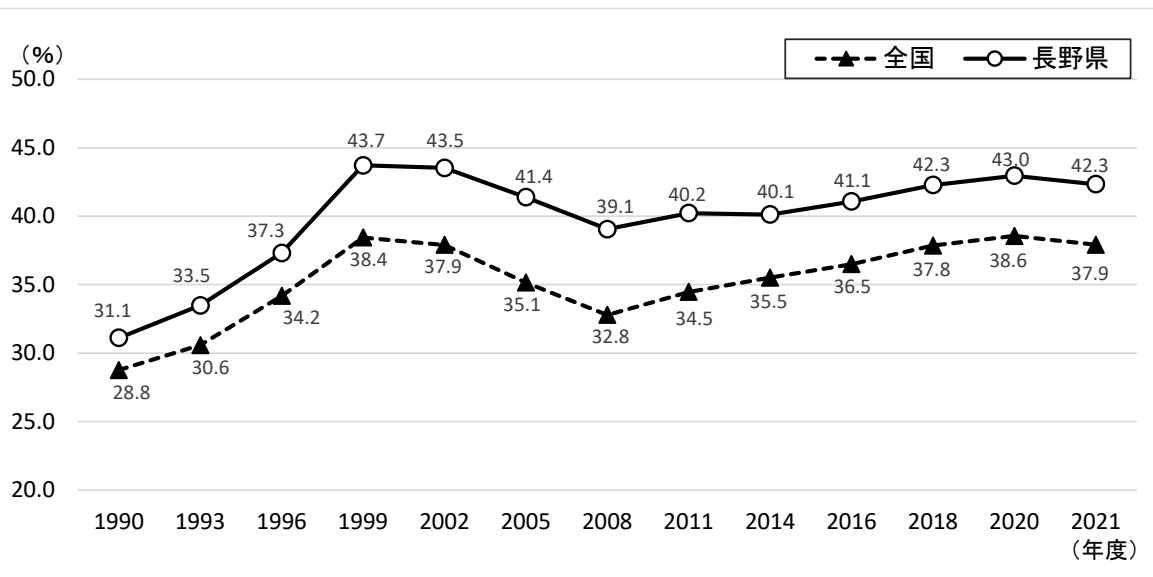
(厚生労働省「国民医療費」、「後期高齢者医療事業状況報告」)

※ 県民医療費については2014年度までは3年毎、2015年度からは各年公表となった。

※ 県民医療費の県民所得に占める割合の算出に用いた県民所得は、1995年度以前は、「1999年度県民経済計算(1990年基準)」、1996～2005年度は「2009年度県民経済計算(2000年基準)」、2006～2010年度は「2018年度県民経済計算(2011年基準)」、2011～2020年度は「2020年度県民経済計算(2015年基準)」による。

※ 国民医療費の国民所得に占める割合は、厚生労働省「2020年度後期高齢者医療事業年報」による。

## 国民（県民）医療費に占める後期高齢者医療費の割合

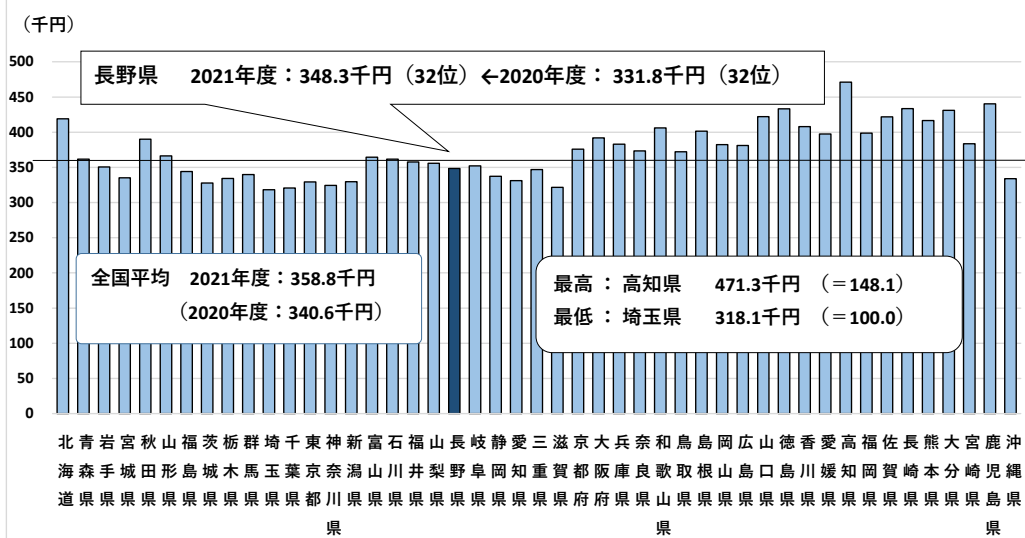


(厚生労働省「国民医療費」、「後期高齢者医療事業状況報告」)

## 2 1人当たり県民医療費の状況

2021年度の1人当たり県民医療費は **348.3千円** で、全国平均の **358.8千円** と比較して **10.5千円** 低く、全国第32位(低い方から16番目)となっています。

### 都道府県別1人当たり医療費



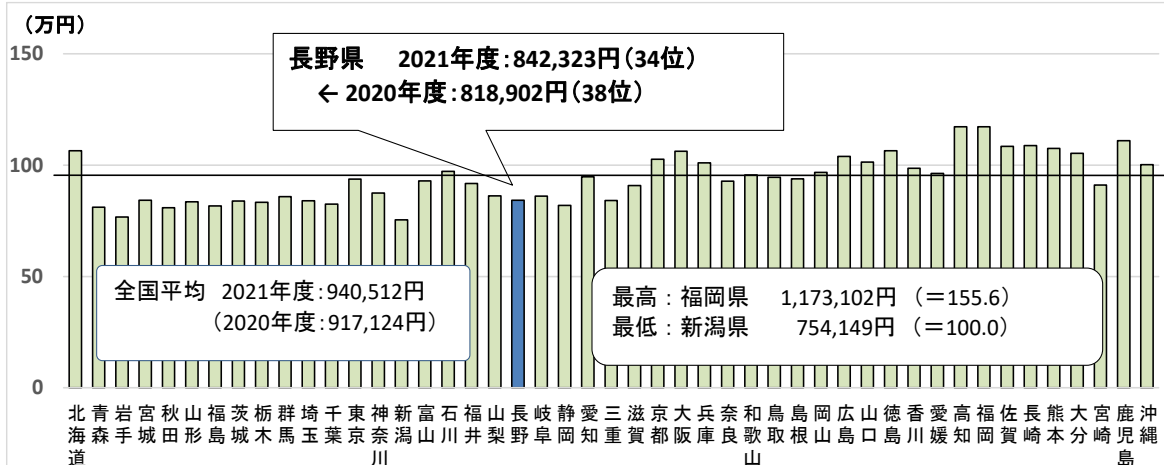
(厚生労働省「2021年度国民医療費」)

## 3 1人当たり後期高齢者医療費の状況

長野県の2021年度の1人当たり後期高齢者医療費は842,323円で、全国平均の940,512円と比較して98,189円低く、全国第34位(低い方から14番目)となっています。



### 1人あたり後期高齢者医療費の状況



(厚生労働省「2021年度後期高齢者医療事業状況報告」)

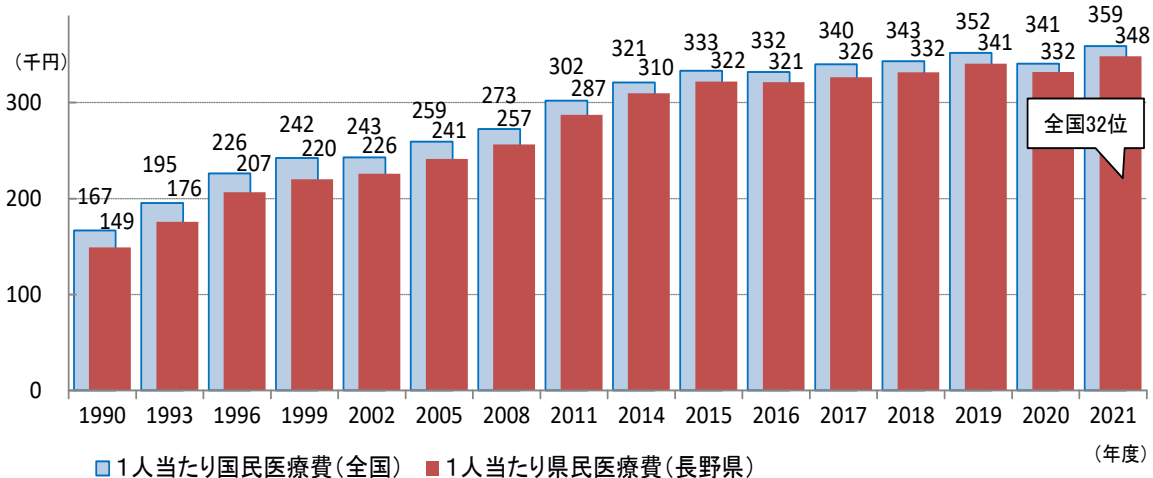
## 4 1人あたり医療費の推移

長野県の1人あたり県民医療費は、全国平均よりも低く推移してきましたが、長野県も全国も増加傾向にあります。

また、後期高齢者医療費も、1人あたり医療費が年々増加しており、1990年度から2007年度までは全国最低額でしたが、2008年度には45位、2021年度には34位となり、全国平均との差も小さくなっています。

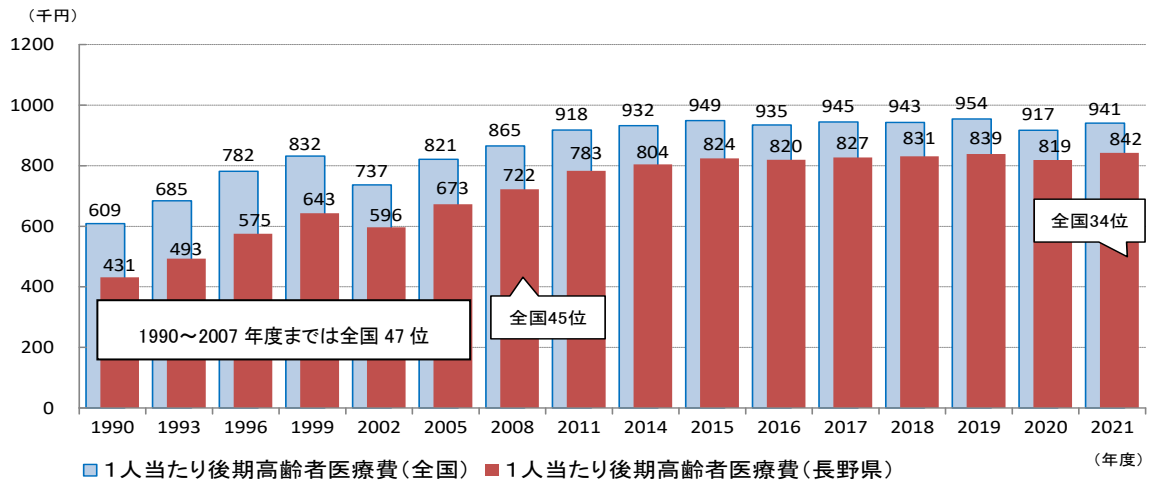
対前年度比は2.8%増で、伸び率では全国第12位です。

### 1人あたり国民(県民)医療費の推移



(厚生労働省「国民医療費」)

## 1人当たり後期高齢者医療費の推移



(厚生労働省「後期高齢者医療事業状況報告」)

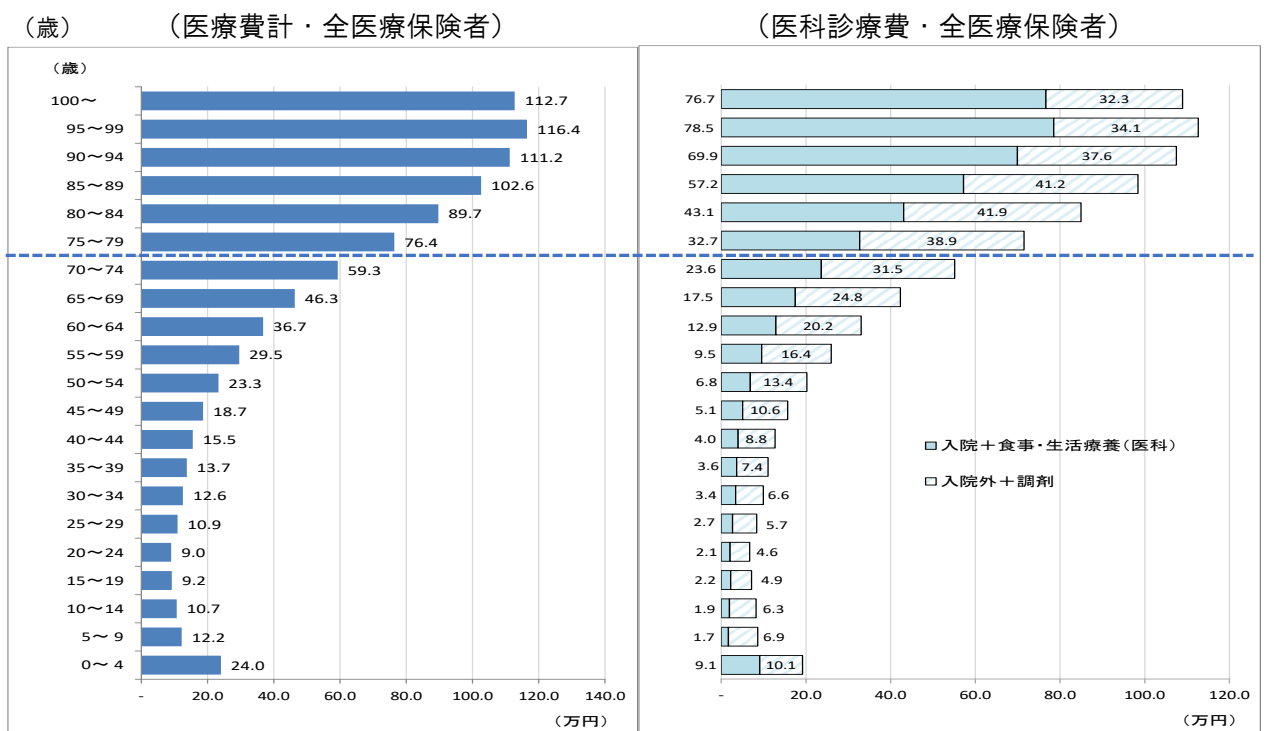
## 5 年齢階級別1人当たり医療費の状況

### (1) 全国の状況

2021年度の1人当たり医療費を年齢階級別にみると、20～24歳まで年齢とともに徐々に下がり、その後は年齢が上がるとともに高くなっています。

70歳代までは外来（入院外+調剤）の割合が高く、80歳代になると入院（入院+食事療養）の割合が高くなっています。

### 年齢階級別1人当たり医療費の状況（全国）



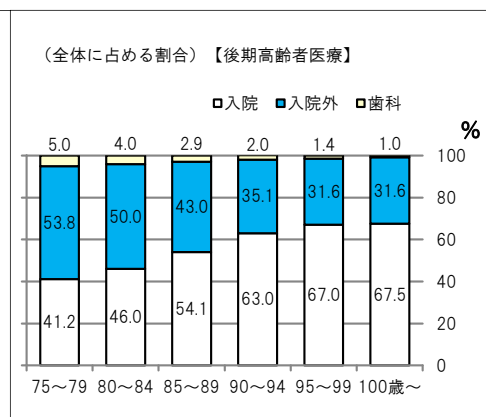
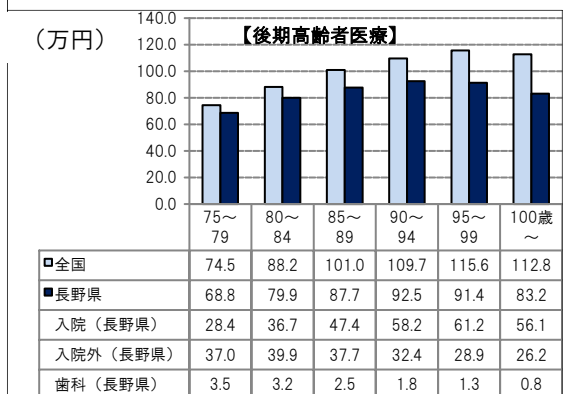
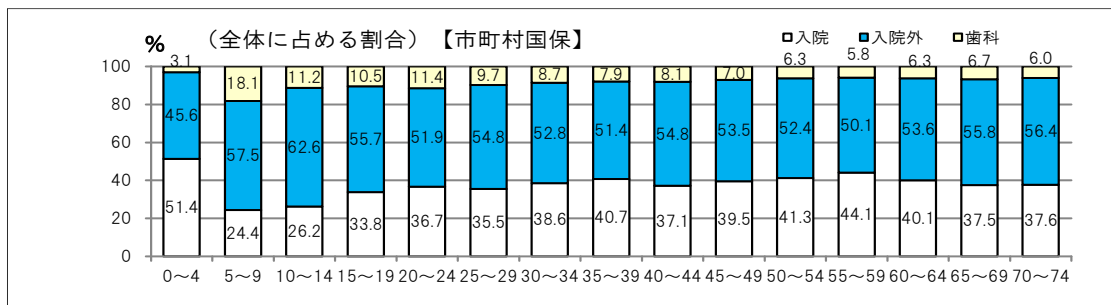
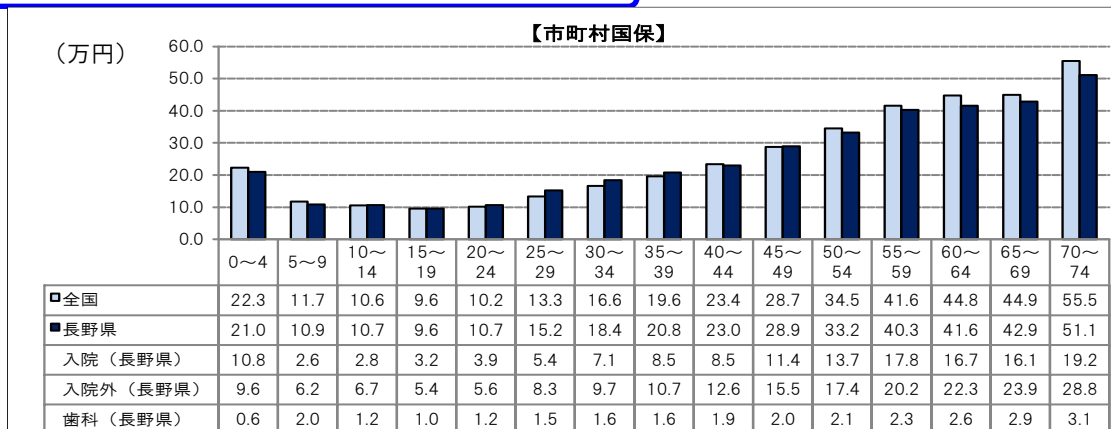
(厚生労働省「2021年度医療給付実態調査報告」)

## (2) 長野県の状況

長野県の年齢階級別1人当たり医療費は、15～19歳までは年齢とともに徐々に下がり、その後は年齢とともに高くなっています。今後も、高齢化の進展に伴い、医療費の増加が見込まれます。

1人当たり医療費に占める割合を診療種別で見ると、80歳代前半までは入院外（入院外+調剤）の割合が高く、80歳代後半になると入院（入院+食事療養）の割合が高くなっています。

### 年齢階級別1人当たり医療費の状況（長野県）



※65～74歳の障害認定を受けた者を除く

（厚生労働省「2021年度医療費の地域差分析」）

（注1）療養費等を含まないため、1人当たり県民医療費や各種事業年報とは数値が異なる

（注2）入院医療費には入院時食事・生活療養費を含み、入院外医療費には調剤医療費を含む。

# 疾病別医療費の状況

## 1 疾病分類別医療費の状況

2023年5月診療分の診療費を疾病大分類（19分類）別にみると、国民健康保険では「新生物」が最も多く、全体の17.2%を占めており、次いで「循環器系の疾患」が全体の14.2%を占めています。

また、後期高齢者医療では、「循環器系の疾患」が最も多く、全体の23.7%を占めており、次いで「筋骨格系及び結合組織の疾患」が全体の13.2%を占めています。

また、疾病中分類（120分類）別に診療費をみると、生活習慣と関連が深いと考えられる疾病が全体の34.5%を占めています。

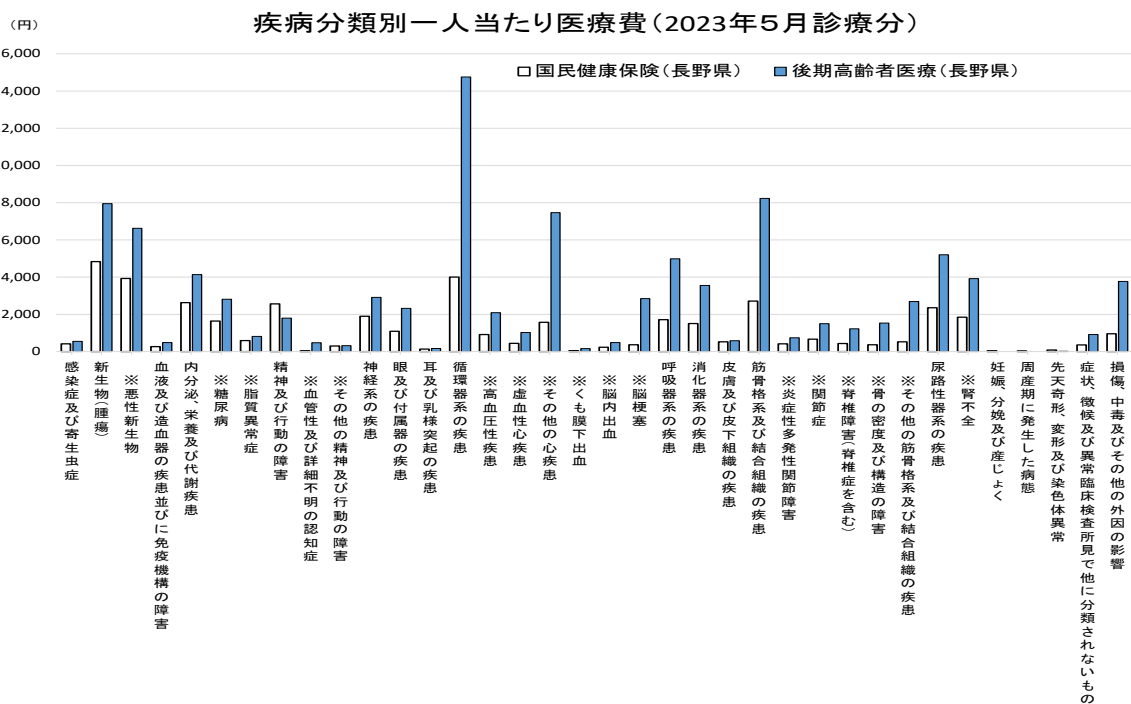
### 疾病分類別医療費の状況（長野県）

疾病大分類別医療費の上位3疾病（2023年5月診療分）

	国民健康保険		後期高齢者医療			
	診療費	割合	診療費	割合		
1位	新生物(腫瘍)	1,970百万円	17.2%	循環器系の疾患	5,505百万円	23.7%
2位	循環器系の疾患	1,632百万円	14.2%	筋骨格系及び結合組織の疾患	3,071百万円	13.2%
3位	筋骨格系及び結合組織の疾患	1,108百万円	9.7%	新生物(腫瘍)	2,965百万円	12.7%

国民健康保険+後期高齢者医療			
	診療費	割合	
1位	循環器系の疾患	7,137百万円	20.5%
2位	新生物(腫瘍)	4,935百万円	14.2%
3位	筋骨格系及び結合組織の疾患	4,179百万円	12.0%



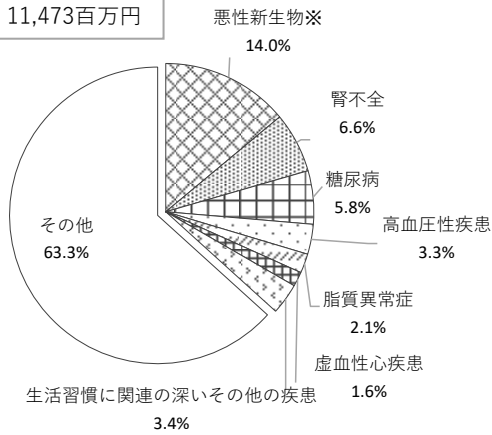
KDB 疾病別医療費分析（大分類、中分類）2023年5月診療分より  
 ※は、左側に記載の疾病の再掲（内数）

- (注1) 疾病大分類は、社会保険表章用疾病分類表（19分類）に基づく分類
- (注2) 疾病中分類は、社会保険表章用疾病分類表（120分類）に基づく分類
- (注3) レセプトには、通常複数の病名が記載されていることがあるが、ここでは最大医療資源傷病名（レセプトに記載されている傷病名と摘要から金額が最も高いとKDBシステムが算出した傷病名）を主たる病名として算出している。

## 生活習慣病に関連の深い疾病の割合（2023年5月診療分）

### 長野県（国民健康保険）

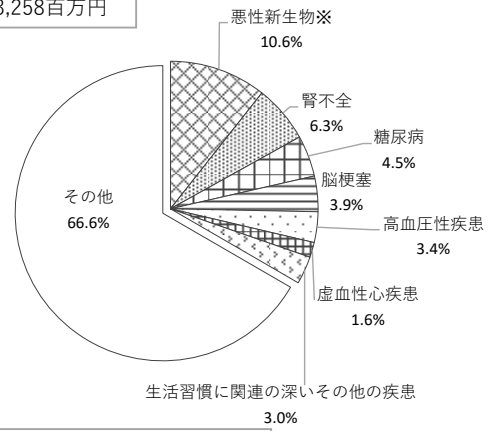
総計 11,473百万円



生活習慣に関連する疾患の割合：36.7%  
4,211百万円

### 長野県（後期高齢者医療）

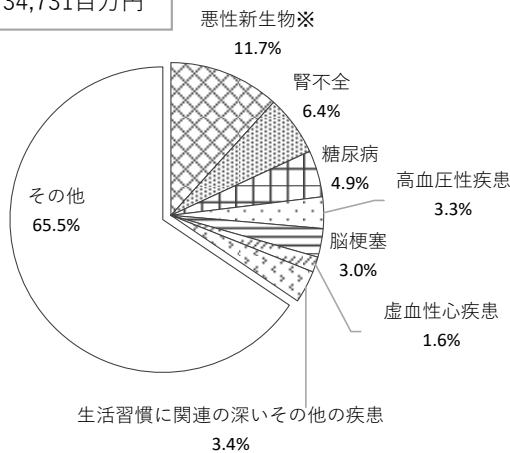
総計 23,258百万円



生活習慣に関連する疾患の割合：33.4%  
7,759百万円

### 長野県（国民健康保険＋後期高齢者医療）

総計 34,731百万円



生活習慣に関連する疾患の割合：34.5%  
11,970百万円

#### 悪性新生物※ 項目内訳

- ・胃の悪性新生物（腫瘍）
- ・結腸の悪性新生物（腫瘍）
- ・直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物（腫瘍）
- ・肝及び肝内胆管の悪性新生物（腫瘍）
- ・気管、気管支及び肺の悪性新生物（腫瘍）
- ・乳房の悪性新生物（腫瘍）
- ・子宮の悪性新生物（腫瘍）

（KDB 疾病別医療費分析（中分類）2023年5月診療分）

※ここでは、生活習慣に関連が深い疾病として、次の12疾病を抽出している。

- ・悪性新生物※ ・糖尿病 ・脂質異常症 ・その他の内分泌、栄養の疾患 ・高血圧性疾患
- ・虚血性心疾患 ・くも膜下出血 ・脳内出血 ・脳梗塞 ・脳動脈硬化（症） ・動脈硬化（症）
- ・腎不全

（注1） 社会保険表章用疾病分類表（120分類）に基づく分類

（注2） レセプトには、通常複数の病名が記載されていることがあるが、ここでは最大医療資源傷病名を主たる病名として算出している。